

## 第3回北海道病院事業推進委員会改革推進プラン検討部会 議事概要

### 1 日時及び場所

令和2年7月17日(金) 18:00~19:40

札幌市中央区北4条西6丁目 TKP札幌ビジネスセンター赤れんが前 5階はまなす

### 2 出席者

(委員)佐古部会長、岡村委員、土橋委員、堤委員、樺委員、平田委員、平野委員、平林委員、松原委員

(道側)鈴木病院事業管理者、粟井部長、東次長、橋本次長、笹谷病院経営課長、有村経営改革課長、小俣経営改革推進指導官、江差病院及び羽幌病院長・事務長、子ども総合医療・療育センター長 ほか

### 3 議事概要

#### (1) 議題

##### ① 江差病院について

事務局から説明を行った後、質疑応答、意見交換が行われた。

##### ② 羽幌病院について

事務局から説明を行った後、質疑応答、意見交換が行われた。

##### ③ 子ども総合医療・療育センターについて

事務局から説明を行った後、質疑応答、意見交換が行われた。

### 4 委員の主な意見等

#### ①江差病院

○江差病院に期待している地域のニーズを調査した上で、どのような医療機能を残していくのか、また、確保していくのか。精神科も含めて、各診療科について検討が必要。

○基幹病院として残るためには、専攻医が行ける病院に患者を集約できなければ難しいと思われることから、南檜山圏域全体の患者を集約しても難しいものが、検討が必要。

○地方では年齢構成的に高齢者が圧倒的に多いと思われるので、認知症疾患等を診ていけないと、精神病床は埋まっていけないのではないか。

○地域連携推進法人が立ち上がるので、そこで集約化を図り、総合診療科でサブスペシャリティ的な技術を持った医師を育成し、ある程度の診療ができるような方向性を新たなプランで検討してほしい。

#### ②羽幌病院

○総合診療を主体とした専門研修は、医師を集める一つのモデルケースであると思う。今後も継続してほしい。

○研修が終わった後のドクターをどのようにするか。6ヶ月交代のローテーションのようにして、次々と総合診療医を育てていくようなところまで伸ばしていただきたい。

○地方においては、小児科利用など専門的な医療は縮小せざるを得ない方向にある。ICTを活用するなどして、住民が安心できるような体制を作っていないといけないのではないか。

### ③子ども総合医療・療育センター

○DPC 制度の導入に関して、しっかりシミュレーションし、導入しない場合でも、常に自分の病院が他の病院と比べてどのような状況にあるのかという検討は常にしていかなければならない。

○道外からでも研修に来る、医師が他の大学から入ってきて、切磋琢磨できるよう、人材育成機能を発展させながら、人材を確保していくことが重要。

○非常に潜在能力が高い施設ではあるが、発信力が弱いので、発信力を高めていく必要がある。